

津山商高（津山市山北）の生徒が、市中心部の商店街で野菜など地元産食材を販売する「TSUSHOふれっしゅまーけっと」が開店から15年目を迎えた。生徒の顔触れは変わっても、若

い力で商店街を活性化させたいとの思いが引き継がれてきた青空市場。今ではすっかり浸透し、商店主からも「普段は静かな通りに若者の声が響き活気づく」と喜ばれている。（竹久祐樹）

## 津山商高「ふれっしゅまーけっと」

# 若い力 商店街に活気



15年目を迎えた「TSUSHOふれっしゅまーけっと」  
 9月26日、ソシオ一番街

まーけっとは、3年生の選択科目「課題研究」の一環で、2000年10月にソシオ一番街の空き店舗を借りて出店したのが始まり。商品流通と販売を実践形式で学ぶため、商品の仕入れや接客、金銭管理は全て生徒が行う。さらに「商店街の厳しい現状を自分の目で確認し、どうすれば盛り上げられるかを考えることも大切な目的の一つ」と担当の三村隆史教諭は言う。

その後、開設場所はアルネ・津山東広場に変更、05年度から現在と同じソシオ一番街にある「まちなかサロン再々」前に。本年度は情報ビジネス科と地域ビジネス科の3年生9人が金曜日（午後1時半～3時）に計7回出店する計画で、これまでに5回営業

## 15年目に突入 流通と販売 実践で学ぶ

した。  
 ネギ、ナス、ブドウ。9月26日、店頭に鏡野町物産館・夢広場から直接仕入れた19品目が並ぶ。「いらっしやませ、津山商業高校です」「野菜が安いですよ」。法被姿の生徒たちが通り掛かりの人に大きな声でPRしていた。この日の売り上げは約2万円。まーけっとの社長を務める情報ビジネス科の安田周矢君（18）は「幅広い年代の人と出会えてやりがいがある。自分たちの活動で商店街が少しでも元氣になればうれしい」と話す。

市中心部の空洞化が言われて久しい。最盛期には約60店が軒を連ねたソシオ一番街の空き店舗は現在約20に上る。事業部副部長の川戸一利さん（51）は「若い生徒の皆さんが商店街と接点を持つことで新たな人を呼び込む起爆剤になってくれれば」と期待する。

まーけっとは今後、31日と12月12日に開かれる予定。